

**製品名: サバイピンウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab18456**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	BIRC5
別名	BIRC5; API4; IAP4; Baculoviral IAP repeat-containing protein 5; Apoptosis inhibitor 4; Apoptosis inhibitor survivin
遺伝子 ID	332.0
SwissProt ID	O15392
免疫原	抗血清はヒトサービピン由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 11-60

**背景**

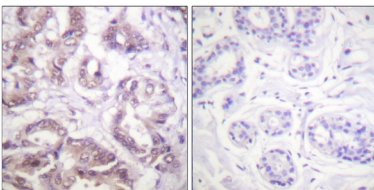
この遺伝子は、アポトーシス抑制因子 (IAP) 遺伝子ファミリーのメンバーであり、アポトーシスによる細胞死を防ぐ負の調節タンパ

ク質をコードしています。IAPファミリーのメンバーは通常、複数のバキュロウイルス IAP リピート (BIR) ドメインを含みますが、この遺伝子は単一の BIR ドメインのみを持つタンパク質をコードします。また、コードされているタンパク質は C 末端の RING フィンガードメインを欠いています。遺伝子発現は胎児発育中およびほとんどの腫瘍で高く、成体組織では低いです。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2011 年 6 月], ドメイン: BIR リピートは、HBXIP 結合に必要かつ十分です。機能: 腫瘍形成において役割を果たす可能性があります。G2/M 期のアポトーシスのデフォルト誘導に対抗する可能性があります。チューブリンと相互作用します。カスパーゼ 3 およびカスパーゼ 7 の阻害剤です。染色体パッセンジャー複合体 (CPC) の成分で、有糸分裂の主要な制御因子として機能します。CPC 複合体は、セントロメアで正しい染色体の配列と分離を確保する上で重要な機能を持ち、クロマチン誘導性微小管の安定化と紡錘体の組み立てに必要です。アイソフォーム 2 と 3 は、有糸分裂で重要な役割を果たしていないようです。アイソフォーム 3 は、表示されている野生型アイソフォームと比較した場合、抗アポトーシス効果が著しく低下しています。類似性:IAP ファミリーに属します。類似性:1 つの BIR リピートを含みます。細胞内局在:前期から中期にかけて染色体腕と内側セントロメアに局在し、後期から細胞質分裂にかけて紡錘体の中間領域と中間体に移行します。有糸分裂染色体で AURKB と共局在します。サブユニット:ホモ二量体。リン酸化されると、HBXIP と相互作用します。得られた複合体は、活性カスパーゼ 9 だけでなくプロカスパーゼ 9 にも結合するが、その効率ははるかに低い。CPC の構成要素は、少なくとも BIRC5/サーベリン、CDCA8/ボレアリン、INCENP、AURKB/オーロラ B から構成される。EVI5 と相互作用する。組織特異性: 胎児の腎臓と肝臓にのみ発現し、肺と脳にも発現は少ない。腺癌 (肺、膵臓、結腸、乳房、前立腺) および高悪性度リンパ腫に豊富に発現する。また、様々な腎細胞癌細胞株にも発現する。、

## 研究分野

がんの経路;大腸がん;

## 画像データ



Survivin 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。